



みんなが輝くために

広島法務局尾道支局と尾道人権擁護委員協議会が実施した第40回全国中学生人権作文コンテスト広島県大会で、向島中学校1年 森本美結さんの作文が「優秀特別賞(広島東洋カープ賞)」に選ばれました。

作品を通して、人権について改めて考えてみてください。

みんな同じ人間だよ

私は発達障害(自閉症スペクトラム障害)で、ちょっとした物事のこだわりが強い特性があります。小さい頃は、母が洗たく物を筒状に丸めているのを見て、きれいにたたみ直したり、小学生からは机の上の教科書の配置を自分の思うように配置し、色えんぴつは最初に並んでいた色の通りに入れ、ファイルに綴じるプリントはもらった日の順番通りに入れるなど、とにかくこだわりが強く、そうしないとイライラしたり、かんしゃくを起こして泣いてしまったりの繰り返しでした。こういうことがあり、他の人には理解されにくく、人間関係にも支障が出ていました。

小学生の頃、私は支援級のクラスに入っていました。そのとき、「支援級って障害がある人だけが行くところだよね?」「なんで障害ないのに行っているの?」「全然そんな風に見えないよ。」と言われたことがありました。目に見えるようなことだけが障害という訳ではないのになと思いました。

それからちょっと経ったある日、「支援級って絶対楽だよ。」と、バカにする感じで言ってくる人もいました。それからどんどんエスカレートしていき、すれ違った男子に「障害者がなんでここにいるんだよ。どっかに行け。」と言われたことがありました。本当に辛かった。自分も同じ人間なのに。

私はその場で泣いてしまいました。このときから不登校になりました。学校を休んでいる間には先生からの手紙が来て、「みんな学校に来てくれるのを待っているよ!」という内容。私はその言葉を信じられませんでした。

学校に行ってもまたどうせ前みたいなことが起こると思ったからです。その頃の自分は何もかもどうでもよくて、「死」ということの意味もよくわからずに、「死にたい」といつも思っていて、学校の先生たちにも「死ね」などとよく言っていました。

学校を少し休んでは少し行ってというのを繰り返しながら五年に進級しました。不安な学校生活でしたが、仲良しの友達ができ、不安な中でも楽しい時間もできてきました。少しずつ自分にも自信がつき、六年生は普通級に進級しました。ですが、支援級から来たということで、「支援級へ帰れ。」「支援級ってアホな子が行くところなんですよ?」と平気で言ってくる人たちがいて、本当に怖かったです。仲が良かったはずの友達にも、私から「死ねって言われた。」と、私が言ってもないことを言われたりしました。なぜそんなことが起こるのか、自分では理解できず、頭の中が整理できませんでし

た。でもこのことは、「死」について考えられるよいきっかけになりました。

そんなことがありながらも、学校に行けたのは、偏見を持たない友達がいたからでした。心ない言葉と言われるたび、何も言い返せずにいても、「それ違うよ。」と、私に代わって言ってくれる友達に何度救われたのかわかりません。

こういうことは無い方がいいけど、私はこういうことが経験できて良かったと思います。私と同じような思いをしている子がいたら、その子の気持ちがすごくよくわかるし、今では少しずつ自分の気持ちも言葉に出して言えるようになってきました。みんな同じ人間なんだ。それぞれ色んな特性はあるけれど、人として優劣はないんだ、と声を大きくして言いたいです。

私とその友達をカッコいいなと思ったように、これから私も、思いやりを持って人と接することができる人間になりたいと思います。

私が、そんな風に思ったように、またひとり、またひとりと、だんだん思いやりの輪が広がっていくと、もっと多様性が受け入れられる社会になっていくのではないかと思います。

「みんなが輝くために」を読まれて、みなさんの感想やご意見をお寄せください。

〒722-0041 防地町26-24 人権男女共同参画課
(☎0848-37-2631 ☎0848-37-6631)

令和3年度小学生 人権標語の入賞作品が決まりました

尾道市 最優秀賞

■いじりでも されたがわは いじめです
(長江小学校6年)

■「思いやり」 いじめがなくなる 道しるべ
(因北小学校6年)

■助け合い その心には 自しゅくなし
(因島南小学校6年)

☎人権男女共同参画課(☎0848-37-2631)